

国語

I

出典

福井一喜『「無理しない」観光——価値と多様性の再発見』〈はじめに〉〈序章 なぜ「みんな幸せ」になれなかったのか——観光をめぐる理想と現実〉（ミネルヴァ書房）

解答

- 問1 1—⑦ 2—③ 3—④ 4—⑦ 5—⑧ 6—④
- 問2 ⑤

- 問3 a—③ b—⑧ c—④ d—① e—⑥ f—② g—⑦ h—⑤

- 問4 A—⑥ B—⑧ C—③ D—⑦ E—④ F—⑤ G—① H—②

- 問5 あ—② い—④ う—⑥ え—③ お—⑤ か—①

- 問6 ⑤・⑥

- 問7 実績

- 問8 雇用創出〔経済成長・経済発展〕

- 問9 自助努力

- 問10 矛盾〔問題〕

- 問11 希望的

問2

① 傍線部 a の三段落後の「人気の場所や産業は、…価値があると評価しやすい」に合致している。  
 ② 傍線部 a の三段落後の「これだけたくさんの人がきた、これだけの経済効果があった、…税金で再生するにふさわしい」に合致している。

③ 傍線部 a の段落の「経済効果は、…さまざまな産業にも広く波及」に合致している。

④ 「経済効果」があるということは税金も増えるので、「地域の財源」は豊かになる。

⑤ 傍線部 a の三段落後に「逆に実績が出なければ」とある。「税金の投入」で必ず観光産業が発展するわけではない。

問3

次の問4でも言えることであるが、前後の文脈だけではなく、全体を通しての筆者の主張も考慮しつつ空所にあてはまる言葉を選択するようにしよう。dの「『多岐』に渡る」、hの「『厳然』たる事実」のように、ほぼ言い回しが決まっているところは確実に押さえておきたい。

問6

① 「少子化などの問題」が「観光産業が発展していくだけで解決」できるとは言っていない。

② 「稼げる観光施設に生まれ変わらせ」が不適。

③ 「地域経済の発展が必ずもたらされる」とは言っていない。

④ 「観光産業」は「日本のどの地域においても」活性化をはかれる産業たりえていない。

⑤ 傍線部 a の次段落の「観光にしぼって…自治体のさまざまな産業や地域が再生される」に合致している。

⑥ 第七段落に「観光を、社会のあり方とともに問い直さねばならない」とあるのに合致している。

⑦ 空所 d の次段落で、「観光による経済の活性化」は、「中長期的には」「地域の個性を弱め」という現実があると  
 言っている。

⑧ 「すべての地域で」とは言っていない。

問7

前段落に「『実績』ができれば、補助金として税金を投入する名目が立つ」とある。「『客観的な価値』があると言え

ないものには、税金を出せない」は「実績」のないものには、税金を出せない」と置き換えることができる。

**問8** 「地域に生じる具体的な出来事」とあるのに注意する。漢字四字の言葉で「地域」の「活性化」に関連するものを探すと、「雇用創出」「経済成長」「経済発展」が挙げられる。「具体的」という点では「雇用創出」が最適と思われるが、他の二つも可。

**問9** 直前の「『自力でなんとかしなければならぬ』とされてしまう」をヒントに考える。第三段落に同様のことが述べられている。

**問10** 観光によって地域の「経済の活性化」を図ろうとしているのに、「観光で得をしている」のが「金持ちの観光客や投資家」で、「地域住民たち」が損をしているという状況のこと。第三段落に同様の内容があり、第四段落で端的に言い換えている。

**問11** 「可能性もあるでしょう」という楽観的な見方のことである。三段落後に「こうした議論…えてして希望的で抽象的である」とあるのが参考になる。

## II

### 出典

『古本説話集』〈第六十 真福田丸事〉

### 解答

**問1** ア—① イ—② ウ—④ エ—②

**問2** い—④ ろ—④ は—① に—② ほ—⑤

**問3** ⑤

**問4** ④

**問5** (1)—③

(2)—④

(3)—④

**問6** a—②

b—③

c—④

問7 ④

問8 今昔物語集

問9 病気にかかって死んでしまった(一五字以内)

解説

問1 ア、「おほけなし」は「身のほど知らずだ、身分不相応だ」の意。長者の姫君に恋心を抱いてしまったことを言っている。

イ、「あながちなり」は「無理矢理だ、強引だ」の意。

ウ、「かしこまる」は「恐れ敬う、恐縮する」の意。

エ、「口惜し」は「残念だ、がっかりだ、不本意だ」の意。

問2 い、「いみじ」は「善悪ともに程度のはなはだしいさま」に使う。直前の「家には山を築き…」の内容から判断する。

ろ、「いつき」は「大切に世話をする」の意の動詞の連用形。「動詞の連用形＋人」で「そういう状態の者」を表す用法。

は、「えもいはず」は「表現のしようがない、なんとも言いようがない」で善悪どちらの意味にも使われる。直後の「これを見てより後、…おほけなき心つきて」から判断する。

に、「むずる」は推量の助動詞「むず」の連体形である。

ほ、「手」はさまざまの意味があるが、ここは「書か」とあることから「文字」の意。

問3 「だに」は類推の副助詞。「ほのめかす」は「それとなく言う」の意。「便り」は、この場合は「縁故、手づる」の意。直前の「おほけなき心つきて」が「かく」の指示する内容である。「顔かたちえもいはず」という姫君を見て以来伏せていること、「させる病にはあらず」と言っていることから考える。

**問4** 「弟子ども怪しみて」質問したところ「亡者智光、必ず往生すべかりし人なり…我、方便にて（＝便宜的な手段で）、かくはこしらへたるなり（＝このように教え導いたのだ）」と答えていることから、判断するとよい。

**問5** 「往生す」はサ変動詞の終止形。「べかり」は当然の助動詞「べし」の連用形、下に過去の助動詞「き」の連体形「し」が接続しているので、カリ活用の連用形「べかり」となったもの。

**問7** ①「門守りの女」とあるので、「娘の世話係」は不適。

②母は、真福田丸の病の理由を尋ねた後で病気になったので、「同時に病気になって」は不適。

③「すぐに結婚」はしていない。

⑤「法師になるべし」と言われた後、実際に法師になって修行に出ている。

⑥「この姫君、はかなくわづらひて失せにけり」とある。「忽然と消えていた」は不適。

**問9** 「わづらふ」は病気になる、  
「失す」は死ぬの意である。